

音谷池（おんだにいけ）

位置図



諸元

| | |
|------|-----------------------|
| 貯水量 | 383.4 千m ³ |
| 満水面積 | 7.8 ha |
| 受益面積 | 60 ha |
| 堤高 | 12.7 m |
| 堤長 | 210 m |

高松市香南町にある冠櫻神社かんえいから町道を高松空港へまっすぐ南に向かうと、道の西側の谷にあるのが「音谷池」です。

香南町は丘陵地にあり水の苦勞は絶えず、水田には5~7割の田植えしかできないことがありました。音谷池は昔「合子池」と呼ばれる小池があり、寛永・正保年間（1624~1648年）のころ改築され「音谷池」と改められました。明治32年（1899年）には、豪農妹尾彦六が村内の地主を説得、公費1万2,240円で改築工事に着手したと伝えられています。

これにより堤長116間（210m）、堤高7間2尺（13m）、池面積はおよそ2倍、貯水量はほぼ4倍となりましたが、ため池は満水することが少なく干ばつの悩みは続きました。その後、大正7年（1918年）の台風で堤防が決壊、村長となった妹尾彦六が再び復旧に着手、大正9年（1920年）に完成を見ました。しかし水不足は続き、解決したのは、昭和27年（1952年）に完成した内場ダムと引き続いて行われたダムの水を導水する池西幹線水路の完成以降のことでした。

受益地域は、高松空港の建設に関連して行われた基盤整備事業で、パイプライン工事が行われ、バルブ操作で配水が行える近代設備が備えられました。



音谷池